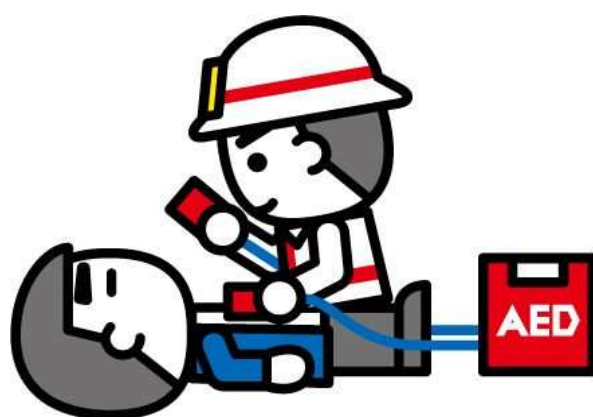


III 救急・救助



余 白

第 1 救急活動の概況

1 救急業務実施体制

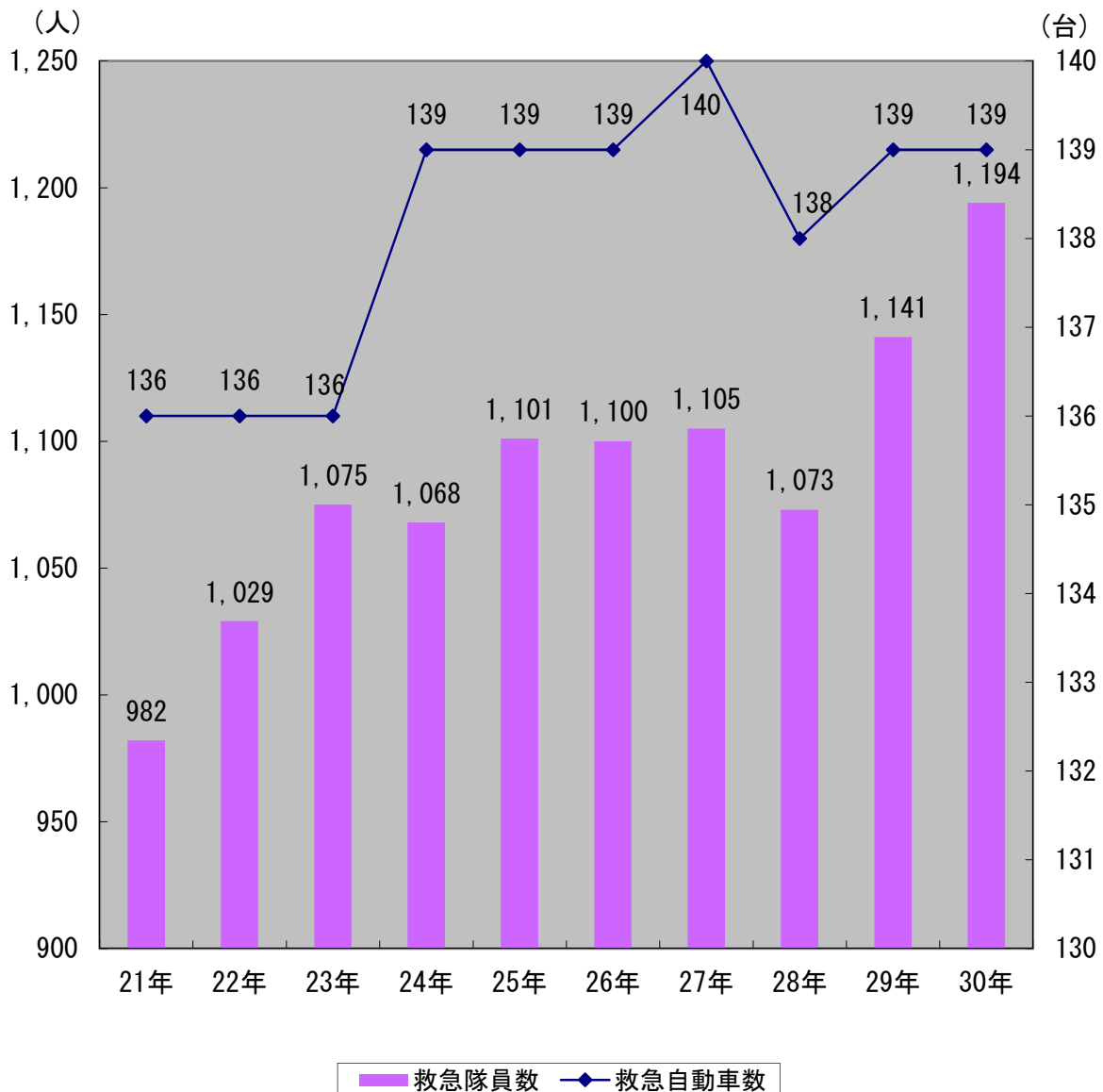
平成30年4月1日において救急業務を実施している市町村は41市町村で、県人口の99.9%がカバーされている。

救急自動車の保有台数は139台、救急隊員は1,194人（専任296人，兼任898人）で、前年に比べ救急隊員は53人増加している。また、救急告示医療機関は97機関，その他医療機関は1,379機関となっている。

平成3年8月にプレホスピタル・ケア充実の一環として、救急隊員の行う応急処置の範囲が拡大されるとともに、高度な応急処置を行うための新たな国家資格制度として救急救命士制度が導入され、救命率の向上を目指した救急業務の高度化が推進されている。

平成30年4月1日現在、県内全消防本部で救急救命士を運用（一部運用を含む）しており、資格者合計668名のうち592名が救急業務に従事している。

図 1 過去10年間の救急自動車及び救急隊員数の推移（各年4月1日現在）



2 救急業務実施状況

(1) 概要

平成29年中における救急出動件数は83,891件、搬送人員は76,762人で、いずれも過去最多となった。

また、昨年と比べると救急出動件数は950件（1.10%）の増加、搬送人員は673人（0.90%）の増加となっている。

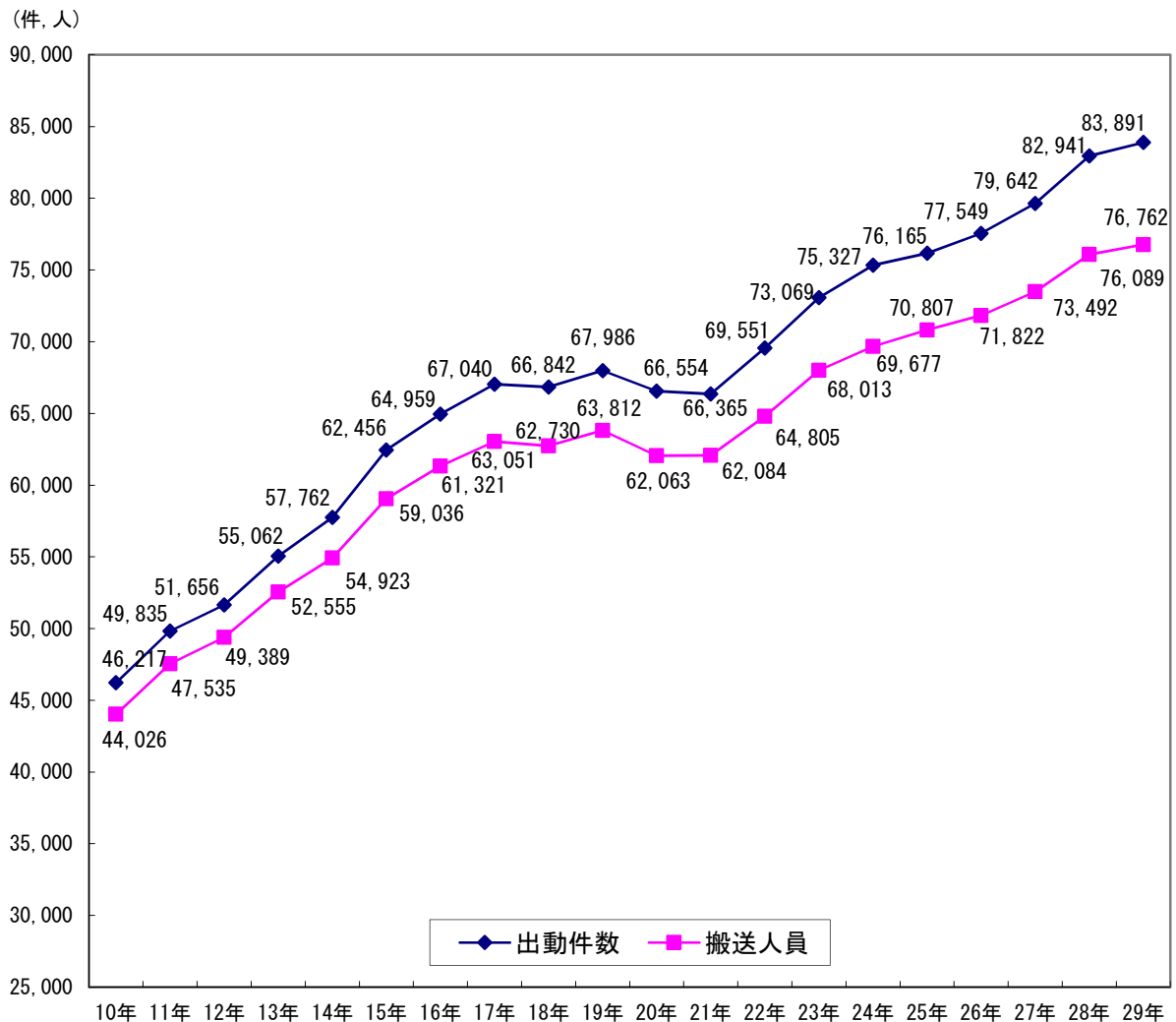
これは、1日平均229.8件（前年227.2件）、約6.3分に1回の割合で救急隊が出動し、また1日平均210.3人（前年208.5人）、約6.9分に1人の割合で搬送されていることとなる。

事故種別救急出動件数は、前年と同じく1位が急病で50,222件（全体の59.9%）、次いで、その他12,738件（同15.2%）、一般負傷が11,684件（同13.9%）となっている。

なお、搬送人員については、1位が急病で45,479人（全体の59.3%）、次いで、その他が12,667人（同16.5%）、一般負傷が10,883人（同14.2%）となり、上位3位までで全体の約89.9%を占めている。

過去20年間の県内救急活動の推移は下図のとおりであり、これまで増加の一途をたどっていた搬送人員・出動件数は、平成17年からほぼ横ばいとなっていたが、平成22年から再び増加に転じている。

図2 過去20年間の救急出動件数、搬送人員の推移



(2) 事故種別，傷病程度別及び年齢区分別搬送人員の状況

表1 事故種別出動件数及び搬送人員の状況

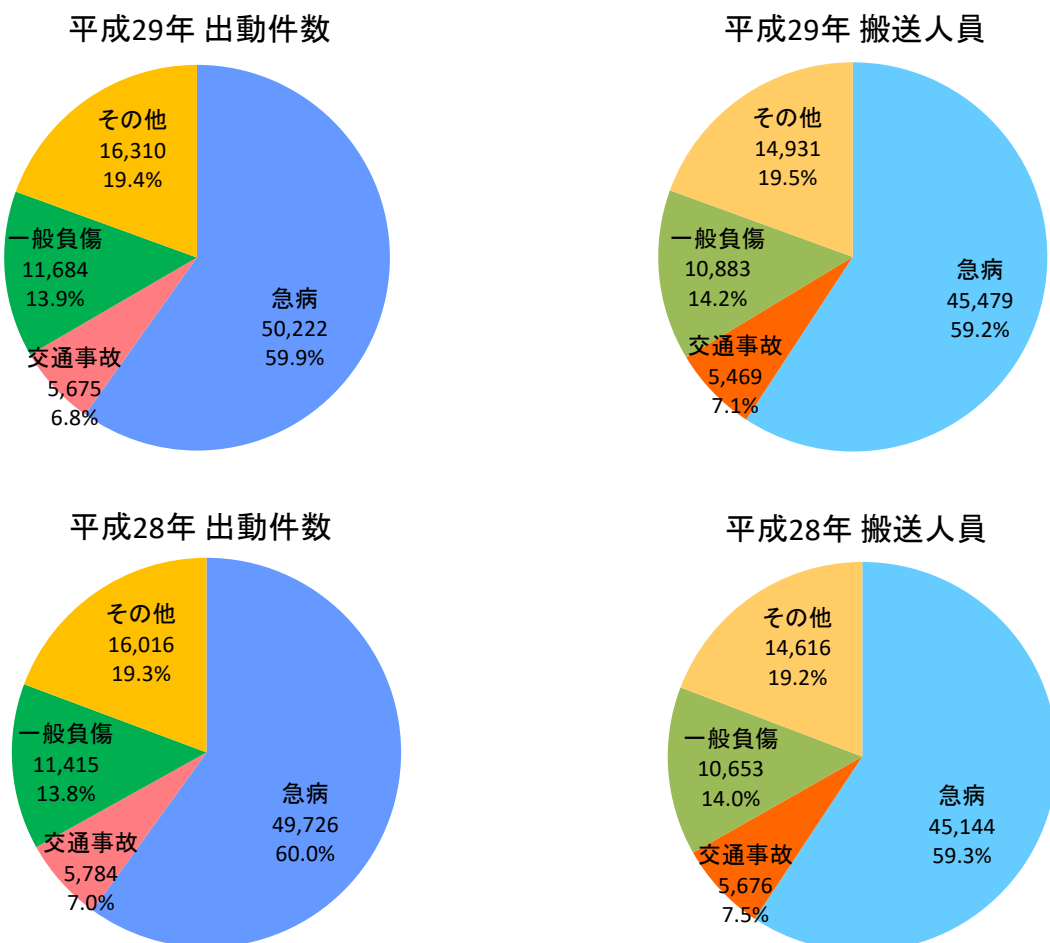
(単位：件，人，%)

区分		計		急病		交通事故		一般負傷		その他	
		計	構成比	急病	構成比	交通事故	構成比	一般負傷	構成比	その他	構成比
平成29年	出動件数	83,891	100.0	50,222	59.9	5,675	6.8	11,684	13.9	16,310	19.4
	搬送人員	76,762	100.0	45,479	59.2	5,469	7.1	10,883	14.2	14,931	19.5
平成28年	出動件数	82,941	100.0	49,726	60.0	5,784	7.0	11,415	13.8	16,016	19.3
	搬送人員	76,089	100.0	45,144	59.3	5,676	7.5	10,653	14.0	14,616	19.2
増減	出動件数	950	—	496	—	△ 109	—	269	—	294	—
	搬送人員	673	—	335	—	△ 207	—	230	—	315	—

(注) その他は，火災・自然災害・水難・労働災害・運動競技・加害・自損行為・その他（転院搬送・医師搬送・資機材等搬送・その他）を示す。

図3

(単位：件，人，%)



ア 年齢別搬送人員

搬送人員の年齢別事故種別をみると、高齢者、成人、乳幼児では、急病が半数を超える高い率を占めており、少年では他の年齢に比べ、交通事故が比較的高い比率を占めている。

表2 年齢別搬送人員の状況

(単位：人，%)

区分	計		急病		交通事故		一般負傷		その他	
	計	構成比	急病	構成比	交通事故	構成比	一般負傷	構成比	その他	構成比
新生児	173	100.0	18	10.4	0	0.0	6	3.5	149	86.1
乳幼児	2,823	100.0	1814	64.3	161	5.7	578	20.5	270	9.6
少年	2,621	100.0	1,169	44.6	507	19.3	325	12.4	620	23.7
成人	22,567	100.0	12,881	57.1	3,208	14.2	2,004	8.9	4,474	19.8
高齢者	48,578	100.0	29,597	60.9	1,593	3.3	7,970	16.4	9,418	19.4
合計	76,762	100.0	45,479	59.2	5,469	7.1	10,883	14.2	14,931	19.5

(注) 新生児：生後28日未満の者

乳幼児：生後28日以上満7歳未満の者

少年：満7歳以上満18歳未満の者

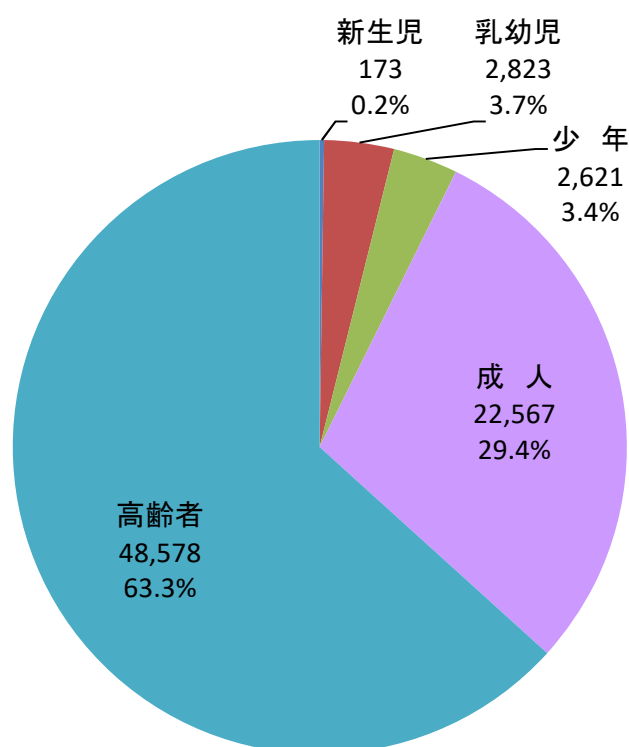
成人：満18歳以上満65歳未満の者

高齢者：満65歳以上の者

(注) その他は、火災・自然災害・水難・労働災害・運動競技・加害・自損行為・その他（転院搬送・医師搬送・資機材等搬送・その他）を示す。

(注) 構成比：搬送理由/年齢区分別搬送人員

図4



イ 傷病程度別搬送人員

平成29年中における搬送人員は76,762人であるが、これを傷病程度別にみると、軽症、中等症の両者で全体の87.7%を占めている。

表3 傷病程度別搬送人員の状況（事故種別）

（単位：人、％）

区分	合計		死亡	構成比	重症		中等症		軽症		その他	構成比
	合計	構成比			重症	構成比	中等症	構成比	軽症	構成比		
火災	69	100.0	1	1.4	15	21.7	25	36.2	28	40.6		
自然災害	13	100.0			2	15.4	3	23.1	8	61.5		
水難	54	100.0	12	22.2	20	37.0	15	27.8	7	13.0		
交通事故	5,469	100.0	21	0.4	352	6.4	1,832	33.5	3,264	59.7		
労働災害	712	100.0	3	0.4	133	18.7	344	48.3	232	32.6		
運動競技	666	100.0			13	2.0	234	35.1	419	62.9		
一般負傷	10,883	100.0	61	0.6	1,236	11.4	5,327	48.9	4,258	39.1	1	0.01
加害	248	100.0			7	2.8	94	37.9	147	59.3		
自損行為	502	100.0	26	5.2	98	19.5	242	48.2	136	27.1		
急病	45,479	100.0	542	1.2	4,052	8.9	24,945	54.8	15,940	35.0		
その他	12,667	100.0	11	0.1	2,855	22.5	9,406	74.3	392	3.1	3	0.02
計	76,762	100.0	677	0.9	8,783	11.4	42,467	55.3	24,831	32.3	4	0.01

- ※ 死亡：初診時において、死亡が確認されたもの
- 重症：傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの
- 中等症：傷病の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの
- 軽症：傷病の程度が入院を必要としないもの
- その他：医師の診断がないもの及び「その他の場所」へ搬送したもの
- ※ 構成比：傷病程度人数/区分合計

また、年齢別にみると、新生児、成人、高齢者の場合は中等症の割合が高いのに対し、乳幼児、少年の場合は、軽症の比率が高くなっている。

表 4 傷病程度別搬送人員の状況（年齢別区分）

（単位：人，％）

区分	合計		死亡	構成比	重症		中等症		軽症		その他	
	合計	構成比			重症	構成比	中等症	構成比	軽症	構成比	その他	構成比
新生児	173	100.0			57	32.9	105	60.7	10	5.8	1	0.58
乳幼児	2,823	100.0	7	0.2	85	3.0	858	30.4	1,873	66.3		
少年	2,621	100.0			77	2.9	878	33.5	1,666	63.6		
成人	22,567	100.0	103	0.5	1,863	8.3	10,854	48.1	9,746	43.2	1	0.00
高齢者	48,578	100.0	567	1.2	6,701	13.8	29,772	61.3	11,536	23.7	2	0.00
計	76,762	100.0	677	0.9	8,783	11.4	42,467	55.3	24,831	32.3	4	0.01

(3) 現場到着所要時間及び収容所要時間の状況

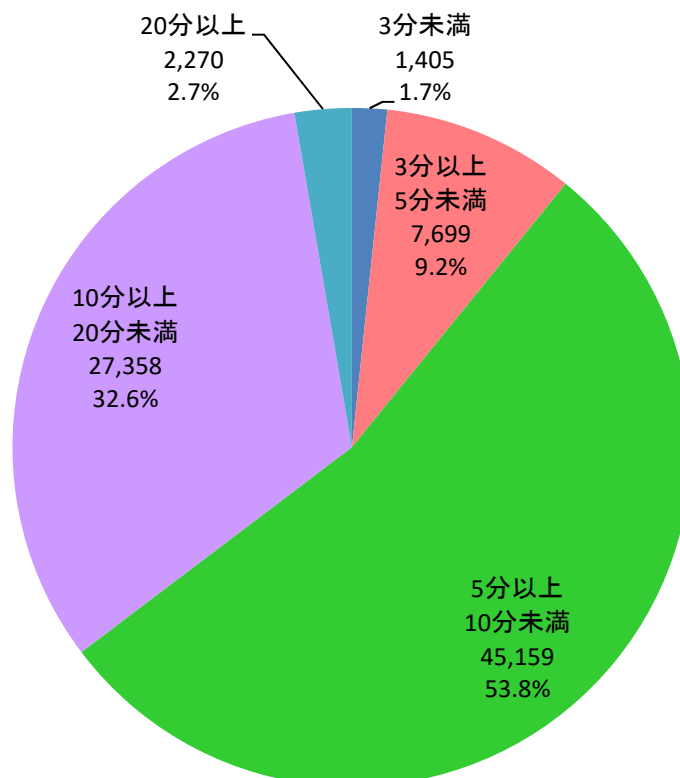
平成29年中の救急出動件数83,891件について現場到着所要時間別（救急事故の覚知から現場に到着するまでに要した時間別）の状況を示したものが下表である。

これによると最も多いのは、5分以上～10分未満の45,159件で全体の53.8%を占めている。

表5 現場到着時間別出動件数

区分	計	3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上	現場到着平均 所要時間	
							県	全国
急病	50,222	671	3,467	26,954	17,827	1,303	9.4分	—
交通事故	5,675	75	378	2,836	2,090	296	10.1分	—
一般負傷	11,684	178	851	6,233	4,046	376	9.4分	—
その他	16,310	481	3,003	9,136	3,395	295	7.6分	—
計	83,891	1,405	7,699	45,159	27,358	2,270	9.1分	8.6分
構成比	100.0%	1.7%	9.2%	53.8%	32.6%	2.7%	—	—

図5



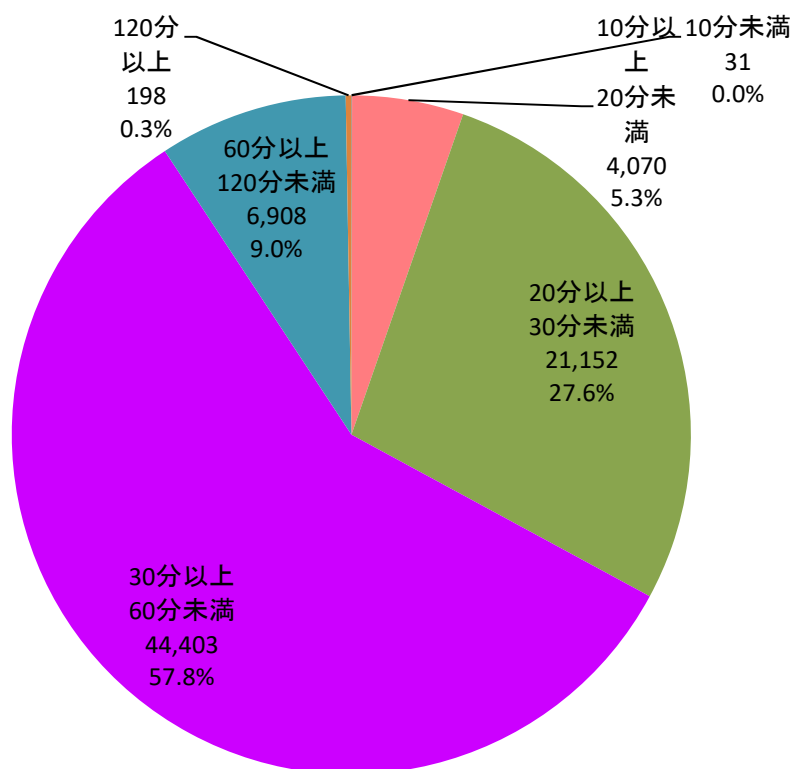
平成29年中の搬送人員76,762人について、収容所要時間別（救急事故の覚知から医療機関に収容するまでに要した時間別）の状況を示したものが下表である。

これによると搬送人員のうち51,509人（67.1%）が収容に30分以上要している。

表6 収容所要時間搬送人員

区分	計	10分未満	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分未満	120分 以上	収容平均 所要時間	
								県	全国
急病	45,479	8	1,678	12,496	27,640	3,572	85	38.1分	—
交通事故	5,469	4	153	1,165	3,521	615	11	41.0分	—
一般負傷	10,883	3	382	2,732	6,740	987	39	39.5分	—
その他	14,931	16	1,857	4,759	6,502	1,734	63	37.5分	—
計	76,762	31	4,070	21,152	44,403	6,908	198	38.4分	39.3分
構成比	100.0%	0.0%	5.3%	27.6%	57.8%	9.0%	0.3%	—	—

図6



- (4) 事故種別転送回数別搬送人員の状況
 搬送人員76,762人のうち99.5%は、転送なしで収容されているが、
 0.5%（398人）にあたる人は転送されている。
 そのうち、転送回数1回の者が転送者全体の99.0%を占めている。

表7 転送回数別搬送人員の状況

区分	計	急病	交通事故	一般負傷	その他	
転送なし	76,364	45,225	5,454	10,798	14,887	
転送	1回	394	251	15	84	44
	2回	4	3		1	
	3回					
	4回					
	5回以上					
	小計 (A)	398	254	15	85	44
計 (B)	76,762	45,479	5,469	10,883	14,931	
転送率 (A)/(B) × 100	0.5	0.6	0.3	0.8	0.3	

転送理由についてみると、救急告示医療機関、非告示医療機関ともに処置困難が多く、次いで専門外の順になっている。

表8 医療機関転送理由の状況

(単位：件，%)

区分	合計	ベッド 満床	専門外	医師不在	手術中	処置困難	理由不明	その他
救急告示	構成比	100.0	0.6	23.2			51.2	25.0
		168	1	39			86	42
非告示	構成比	100.0	1.4	22.6	0.5		65.9	9.7
		217	3	49	1		143	21
計	構成比	100.0	1.0	22.9	0.3		59.5	16.4
		385	4	88	1		229	63

(5) 救急隊員の行った応急処置の状況

平成29年中に転送された人員のうち、救急隊員によって応急処置された人の事故種別、処置項目状況をみると、急病においては、血中酸素飽和度の測定が最も多く、次いで血圧測定が多い。

また、交通事故、一般負傷においても、血中酸素飽和度の測定、血圧測定の順で処置が多くなっている。

表9 救急隊員の行った応急処置の状況

(単位:人)

処置項目	事故種別	計	急病	交通事故	一般負傷	その他				
	応急処置対象搬送人員	75,929	45,314	5,421	10,814	14,380				
止	血	1,729	232	286	1,014	197				
固	定	6,370	314	3,368	2,007	681				
人	工	呼	吸	398	284	9	35	70		
心	マ	ツ	サ	ー	ジ	197	149	3	14	31
心	肺	蘇	生	1,580	1,230	43	170	137		
酸	素	吸	入	16,762	10,507	671	941	4,643		
気	道	確	保	2,493	1,891	66	246	290		
(再掲)気道確保のうち気管挿管		195	135		50	10				
保	温	6,746	4,489	333	915	1,009				
被	覆	3,929	213	1,040	2,256	420				
在	宅	療	法	継	続	156	139	1	7	9
ショックパンツによる血圧保持		2	2							
除	細	動	188	162	4	10	12			
薬	剤	投	与	171	127	3	27	14		
血	圧	測	定	71,887	42,926	5,241	10,265	13,455		
聴診器による心音・呼吸音等の聴取		18,661	12,870	1,704	1,900	2,187				
血中酸素飽和度の測定		73,885	44,042	5,339	10,535	13,969				
心	電	図	39,439	28,179	1,797	3,576	5,887			
静脈路確保(CPA前)		138	101	10	12	15				
静脈路確保(CPA後)		408	325	8	51	24				
血	糖	測	定	623	573	4	27	19		
ブ	ド	ウ	糖	投	与	37	37			
その他の応急処置		41,638	26,557	2,715	5,772	6,594				
計(再掲の気管挿管を除く)		287,437	175,349	22,645	39,780	49,663				

(注) 一人につき複数の応急処置を行うこともあるため、応急処置対象搬送人員と事故種別ごとの処置項目の計の数は一致しない。

(6) 高速道路における救急業務の状況

高速自動車国道における救急業務実施体制は、平成30年4月1日現在、九州縦貫自動車道のうち鹿児島インターチェンジから宮崎インターチェンジ間えびのインターチェンジから人吉インターチェンジ間を沿線3市1組合で、相互応援協定を締結し、上下線方式により、第1次出場をインターチェンジ所在の常備消防が担当する体制を整えている。

東九州自動車道31.7kmは沿線1市1組合が担当している。

県内においては、上り線が鹿児島インターチェンジから宮崎県えびのインターチェンジまでの69.8kmについて、第1次出場を担当し、救急業務を行っている。

なお、平成29年中の本県における救急活動は、下表のとおりである。

高速自動車道における救急活動状況

表10 九州自動車道

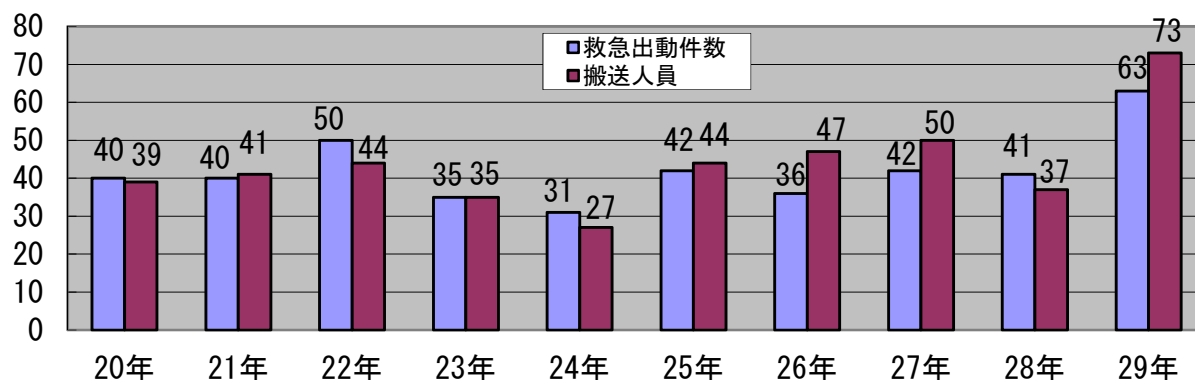
区 分	インターチェンジ名 (I C)	救急出動件数	搬送人員	救急告示医療機関数	高速道路における救急活動開始年月日
鹿児島市消防局	鹿児島	4	4	24	昭和63.3.29
	鹿児島北	9	9	3	昭和52.11.15
	薩摩吉田	5	5		昭和48.12.13
始良市消防本部	始良	9	10	3	昭和48.12.13
	加治木	3	2	3	昭和48.12.13
霧島市消防局	溝辺鹿児島空港	11	15	1	平成17.11.7
	横川	5	7		平成17.11.7
伊佐湧水消防組合	栗野	4	4	3	昭和55.3.22
計	8 I C	50	56	37	

(注) 医療機関は、インターチェンジから半径5キロメートルの範囲にあるものである。

表11 東九州自動車道

区 分	インターチェンジ名 (I C)	救急出動件数	搬送人員	救急告示医療機関数	高速道路における救急活動開始年月日
霧島市消防局	国分	2	3		平成14.3.2
	隼人東	4	2	3	平成12.3.4
大隅曾於地区消防組合	末吉財部	7	12		平成14.5.9
計	3 I C	13	17	3	

図7 最近10年間の高速自動車道における救急出動件数及び搬送人員



3 プレホスピタル・ケアの充実

プレホスピタル・ケア（救急現場及び搬送途上における応急処置）の一層の充実を図るために、平成3年8月に「救急隊員の行う応急処置等の基準」が改正され、これに伴い消防学校における新たな教育訓練（救急標準課程（平成16年4月1日より救急科に改称）及び救急Ⅱ課程）の修了者は、従来の応急処置に加えて9項目の処置を行うものとされ、救急救命士資格者は、医師の指示の下にさらに高度な応急処置（特定3項目）をも行うものとされた。

これに伴い、消防学校における救急科（救急標準課程）の修了者が計画的に養成されるとともに、救急救命士についても県内全消防本部において運用され、資格者、高規格救急自動車のいずれも着実に増加している。

また、救急救命士の質の向上による救命効果を高めるため、平成15年2月に消防機関、救急医療機関、医師会などにより構成される鹿児島県救急業務高度化協議会を、同年3月に6地域（薩摩、北薩、始良伊佐、大隅、熊毛、大島）に地域救急業務高度化協議会を設置し、平成15年4月から包括的除細動を実施し、平成16年7月から認められた医師の具体的指示下での気管挿管についても救急業務高度化協議会で承認された病院で、体制の整った消防本部から順次病院実習を実施し、368名が認定を受け19消防本部で実施が可能となっている。

平成18年4月から認められた医師の具体的指示下での薬剤投与について517名が認定・登録を受け、平成26年4月には「心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保及び輸液、血糖測定並びに低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与」の実施が追加され、325名が認定・登録を受け、20消防本部で実施が可能となっている。

さらに、救急現場近くの一般市民による応急手当を促進するため、平成29年12月末までに応急手当指導員2,416名、応急手当普及員560名が県内消防本部により養成され、住民に対する応急手当講習会が次のとおり実施されている。

なお、平成16年12月に応急手当の普及啓発活動の推進に関する実施要綱の一部改正により、非医療従事者による自動体外式除細動器（AED）の使用が可能となったことから、AEDの内容を含めた救命講習の実施率が高くなっている。

平成29年中の住民に対する応急手当講習会実施状況

普通救命講習	886回	17,857名受講
上級救命講習	36回	431名受講
救急入門コース	496回	15,577名受講
その他の講習	1,506回	43,041名受講

表12 救急業務高度化の推進状況

各年4月1日現在

区分	平成30年	平成29年	対前年比較	
			増減数	増減率
救急救命士運用消防本部数	20	20		1.00
救急隊員数①	1,194	1,141	53	1.05
うち救急救命士有資格者②	565	532	33	1.06
(②/①:%)	(47.3%)	(46.6%)		
(②のうち気管挿管認定者)	368	336	32	1.10
(②のうち薬剤投与認定者)	517	476	41	1.09
(②のうち処置拡大認定者)	325	175	150	1.86
うち救急科（救急標準課程）	535	506	29	1.06
(③/①:%)	(44.8%)	(44.3%)		
救急自動車数④	139	139		1.00
うち高規格車⑤	119	114	5	1.04
(⑤/④:%)	(85.6%)	(82.0%)		
救急隊数⑥	111	108	3	1.03
うち救急救命士運用隊⑦	108	108		1.00
(⑦/⑥:%)	(97.3%)	(100.0%)		

※1 救急隊員として専任又は兼任の辞令を受けている救急救命士資格者数は565名、専任及び兼任の者が休日等の時、代替として救急業務に従事する資格者が27名、救急自動車に搭乗しない資格者が76名で、有資格者は計668名いる。

表13 救急業務実施体制等の状況（消防本部設置市町村）

区分 消防本部別	人口 (人) H27年 国調	面積 (km ²)	救 急 体 制											
			救急車総数 (台)			救急 隊数	救急 救命 士運 用隊 数※ ²	救急隊員数(人)						
			うち 高規 格	うち 予備 車	計			うち資格者・修了者				専任	兼任	
								救急 救命 士	標準 課程	救急 Ⅰ課 程	救急 Ⅱ課 程			
鹿児島市消防局	596,319	547.55	21	20	5	16	16	120	64	50		6	69	51
枕崎市消防本部	22,059	74.78	3	2	1	2	2	33	9	20		4		33
出水市消防本部	54,072	329.98	4	4		3	3	16	14	2				16
垂水市消防本部	15,520	162.1	3	2	1	2	2	39	14	22		3		39
薩摩川内市消防局	96,076	682.92	9	6	1	7	7	50	35	12	1	2	16	34
日置市消防本部	49,249	253.01	4	4	1	3	3	48	19	29			19	29
霧島市消防局	125,857	603.18	8	8		8	8	54	48	6			48	6
いちき串木野市 消防本部	29,290	112.3	3	3	1	2	2	37	15	17	1	4		37
南さつま市消防本部	35,439	283.59	5	4		5	5	71	21	47		3	21	50
始良市消防本部	76,993	231.25	5	4	1	4	4	34	29	5			34	
さつま町消防本部	21,569	303.9	3	3	1	2	2	19	10	8		1	11	8
指宿南九州消防組合	78,215	506.75	8	6		8	8	124	48	71		5		124
阿久根地区消防組合	31,629	250.42	6	4	2	4	4	54	18	29		7		54
伊佐湧水消防組合	37,137	536.85	6	5	1	5	5	69	27	35		7		69
大隅曾於地区消防組合	81,308	781.06	9	9	2	7	7	42	35	6		1	24	18
大隅肝属地区消防組合	141,267	1160.79	11	11	1	10	10	84	38	46			30	54
沖永良部与論地区 広域事務組合	17,797	114.27	4	3	2	2	2	36	18	11		7		36
徳之島地区消防組合	25,591	247.91	4	1	1	3	3	46	11	19		16		46
熊毛地区消防組合	42,760	993.69	10	8	4	6	6	87	42	28		17		87
大島地区消防組合	68,504	877.89	13	12	1	12	12	131	50	72		9	8	123
計	1,646,651	9,054.19	139	119	26	111	111	1,194	※1 565	535	2	92	280	914

※1 救急隊員として専任又は兼任の辞令を受けている救急救命士資格者数は565名、専任及び兼任の者が休日等の時、代替として救急業務に従事する資格者が27名、救急自動車に搭乗しない資格者が76名で、有資格者は計668名いる。

※2 救急救命士運用隊数は、一部運用も含む。

[現場到着平均所要時間及び収容平均所要時間は平成29年中、左記以外は平成30年4月1日現在]

医 療 機 関 数												人口10万人当たりの救急医療機関数	現場到着平均所要時間(分)	収容平均所要時間(分)
合計	救急告示医療機関					その他の医療機関								
	国公立	公的	私 的		計	国公立	公的	私 的		計				
			病 院	診 療 所				病 院	診 療 所					
641	3	3	25	3	34	14	6	61	526	607	5.7	8.9	33.3	
19	1		3		4			4	11	15	18.1	4.9	31.3	
40	2				2	1		4	33	38	3.7	8.3	35.7	
9	1				1				8	8	6.4	7.2	41.6	
86		1	6		7	5		5	69	79	7.3	9.2	38.7	
39			2		2			7	30	37	4.1	9.0	42.2	
96	1		4	1	6	1		8	81	90	4.8	9.4	42.4	
29								6	23	29		7.0	37.0	
38	2		1		3	3		4	28	35	8.5	8.1	37.9	
67			3		3	3		8	53	64	3.9	7.5	36.0	
20			1		1			4	15	19	4.6	9.0	47.3	
66	1		3	1	5			12	49	61	6.4	9.3	40.9	
21			2		2	4		1	14	19	6.3	9.3	44.2	
29	1		2		3			4	22	26	8.1	8.3	41.3	
42			1	1	2			8	32	40	2.5	9.3	49.2	
107	2		6	2	10	11		11	75	97	7.1	9.6	42.0	
9			2		2				7	7	11.2	8.5	31.2	
8			2		2			1	5	6	7.8	9.9	42.0	
21	1		2		3	4		1	13	18	7.0	9.2	41.4	
89	1		4		5	7		5	72	84	7.3	12.6	41.3	
1,476	16	4	69	8	97	53	6	154	1,166	1,379	5.9	9.1	38.4	

表14 消防本部救急出動件数及び搬送人員

区分	事故種別救急出動件											
	計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	
消防本部名												
鹿児島市消防局	30,005	80	8	16	2,084	237	213	4,011	125	306	18,755	
枕崎市消防本部	1,157				71	16	3	145	3	10	639	
出水市消防本部	2,195	2		1	189	25	19	295	12	29	1,322	
垂水市消防本部	1,007			1	65	9	1	123	4	2	596	
薩摩川内市消防局	4,388	19	1		290	43	54	563	10	38	2,485	
日置市消防本部	2,260	3	1	1	146	19	27	329	8	14	1,301	
霧島市消防本部	6,247	5	1	2	596	41	36	914	22	63	3,490	
いちき串木野市消防本部	1,202			4	45	17	20	155	1	7	672	
南さつま市消防本部	1,986	2		5	124	6	32	321	2	11	1,064	
始良市消防本部	3,525	1		4	223	33	53	530	7	24	2,077	
さつま町消防本部	1,079	2			75	13	10	151		11	597	
指宿南九州消防組合	4,022	4	2	2	259	38	18	528	8	36	2,086	
阿久根地区消防組合	2,021	3		5	92	17	17	278	5	9	1,194	
伊佐湧水消防組合	1,927	5			111	8	13	287	7	8	1,048	
大隅曾於地区消防組合	4,299	8		2	368	99	38	626	13	52	2,636	
大隅肝属地区消防組合	7,162	5	1	5	534	78	54	938	13	68	4,330	
沖永良部与論地区 広域事務組合	866				30	7	7	149	5	8	530	
徳之島地区消防組合	1,813	1		1	67	5	14	272	14	11	1,266	
熊毛地区消防組合	2,419	5	1	11	109	24	22	401	8	16	1,527	
大島地区消防組合	4,311	3	1	23	197	26	21	668	15	30	2,607	
計	83,891	148	16	83	5,675	761	672	11,684	282	753	50,222	
時間別	0~2	3,599	7		2	116	7	1	446	52	41	2,647
	2~4	2,734	8		1	70	3		278	29	25	2,130
	4~6	2,746	8		4	126	12	1	307	19	36	2,082
	6~8	5,485	8		4	527	23	1	836	16	57	3,746
	8~10	10,111	8	1	7	712	120	33	1,556	11	70	5,780
	10~12	11,362	23	4	6	693	161	171	1,556	11	85	5,717
	12~14	10,082	18	3	15	628	116	149	1,266	7	102	5,272
	14~16	9,162	17	5	18	680	163	144	1,299	14	69	4,874
	16~18	9,110	16	2	12	903	93	72	1,378	13	82	4,839
	18~20	7,986	9	1	6	698	34	53	1,135	21	69	5,086
	20~22	6,542	17		5	318	11	45	975	34	56	4,505
22~24	4,972	9		3	204	18	2	652	55	61	3,544	

〔平成29年中〕

数				事故種別搬送人員											
その他				計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他
転院搬送	医師搬送	資輸 機材 等送	その他												
3,647			523	26,645	28	7	9	2,005	204	210	3,735	108	207	16,482	3,650
258	6	1	5	1,117				75	16	3	141	3	7	614	258
279	8		14	1,998	1		1	176	22	18	268	11	21	1,200	280
199	1		6	978				77	8	1	118	2		573	199
820	8		57	3,911	3	1		268	42	53	509	10	21	2,209	795
408			3	2,163	2	1	1	140	19	26	315	8	14	1,229	408
1,043	32		2	5,769	4	1		520	39	35	857	20	44	3,216	1,033
281				1,109			3	43	18	17	140	1	2	604	281
409	3	1	6	1,897	1		2	125	6	32	310	2	9	1,003	407
570		1	2	3,369			4	233	33	54	502	6	22	1,946	569
213	6		1	984	1			72	13	9	140		4	532	213
1,032	2	1	6	3,811	4	1	2	255	38	17	505	6	21	1,935	1,027
396			5	1,960	3		4	99	15	17	269	3	3	1,151	396
434			6	1,850	5			116	8	18	275	7	4	982	435
450			7	4,039	6		2	341	96	37	589	12	30	2,477	449
1,125			11	6,653	4	1	5	526	78	56	887	13	47	3,916	1,120
130				809				29	7	6	141	3	7	491	125
118	3		41	1,762	1		1	73	5	14	269	11	7	1,261	120
260	29		6	2,291	4	1	9	135	22	22	385	8	7	1,442	256
666	5	1	48	3,647	2		11	161	23	21	528	14	25	2,216	646
12,738	103	5	749	76,762	69	13	54	5,469	712	666	10,883	248	502	45,479	12,667
223	1		56	3,259	4		1	115	7	1	396	47	34	2,432	222
134			56	2,454	2		1	67	3		237	22	23	1,965	134
100			51	2,489	3		3	118	12		282	18	30	1,919	104
209			58	5,062	4		1	509	23	1	786	15	31	3,488	204
1,714	25	1	73	9,260		1	5	661	114	32	1,496	10	42	5,199	1,700
2,848	25	1	61	10,387	11	4	3	682	149	168	1,471	10	51	5,011	2,827
2,413	23	1	69	9,165	11	2	8	608	103	144	1,181	5	54	4,653	2,396
1,808	8	2	61	8,376	10	3	12	671	151	149	1,218	13	37	4,311	1,801
1,605	21		74	8,337	7	2	8	874	88	73	1,281	13	52	4,337	1,602
816			58	7,428	5	1	4	678	33	51	1,067	20	51	4,707	811
529			47	6,020	7		5	293	11	45	882	27	47	4,180	523
339			85	4,525	5		3	193	18	2	586	48	50	3,277	343

表15 曜日別月別救急出動件数

(平成29年中)

事故種別 (件)		火災	自然 災害	水難	交通 事故	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加害	自損 行為	急病	そ の 他				計
												転院 搬送	医師 搬送	資機 材等 輸送	その他	
区分																
曜 日 別	月	26	1	10	819	118	50	1,782	26	113	7,515	2,159	9	1	88	12,717
	火	19	2	3	882	142	61	1,562	30	107	7,009	1,960	14	1	116	11,908
	水	21	1	7	814	118	50	1,560	48	119	6,847	2,046	19	1	100	11,751
	木	18		18	749	114	68	1,559	28	126	7,109	1,954	11		90	11,844
	金	18	1	18	888	120	70	1,554	35	100	7,083	2,072	19		109	12,087
	土	22	10	16	813	88	129	1,798	50	86	7,187	1,551	19	2	121	11,892
	日	24	1	11	710	61	244	1,869	65	102	7,472	996	12		125	11,692
計		148	16	83	5,675	761	672	11,684	282	753	50,222	12,738	103	5	749	83,891
月 別	1月	9		4	410	52	28	1081	20	71	4,866	1,133	6	2	60	7,742
	2月	19	1	2	391	50	34	884	17	62	4,315	1,019	9		56	6,859
	3月	13		4	412	47	55	976	23	60	4,093	1,067	7		68	6,825
	4月	9		7	464	47	46	885	16	61	3,794	994	6		53	6,382
	5月	15		9	456	49	67	947	26	68	3,908	1044	7		53	6,649
	6月	10		7	478	58	55	819	21	60	3,681	984	13		69	6,255
	7月	15	2	7	528	82	127	973	23	66	4,591	1052	9	1	81	7,557
	8月	9	10	17	514	121	56	965	28	75	4,455	1145	12	1	68	7,476
	9月	9	1	13	467	53	78	900	37	78	3,728	990	6		64	6,424
	10月	12	2	7	518	71	61	1034	23	62	3,969	1034	8	1	59	6,861
	11月	15			496	64	41	1046	20	47	3,970	1082	6		63	6,850
	12月	13		6	541	67	24	1174	28	43	4,852	1,194	14		55	8,011

4 応急手当指導員等養成講習の状況

表16

【指導員】

区分	講習修了者数						登録を抹消した者	講習回数
	計	消防職員	消防職員の退職者	消防団員	救命士等の医療従事者	その他		
平成28年中修了者	応急手当指導員講習Ⅰ	71	66	3		2		4
	応急手当指導員講習Ⅱ	64	8		56			9
	応急手当指導員講習Ⅲ							
	消防長認定者	33	27	6			10	
	応急手当指導員講習Ⅰ免除者	15	15				1	
	計	183	116	9	56	2	11	13
前年中までの修了者	応急手当指導員講習Ⅰ	514	405	15	55	39	14	53
	応急手当指導員講習Ⅱ	1,022	525		497		2	406
	応急手当指導員講習Ⅲ	2	1			1		1
	消防長認定者	558	506	28		24	21	
	応急手当指導員講習Ⅰ免除者	137	132	4			1	
	計	2,233	1,569	47	552	64	38	460
合計	2,416	1,685	56	608	66	49	473	

表17

【普及員】

区分	講習修了者数						登録を抹消した者	講習回数
	計	消防職員	消防職員の退職者	消防団員	救命士等の医療従事者	その他		
平成28年中修了者	応急手当普及員講習Ⅰ	102	1		31	2	68	3
	応急手当普及員講習Ⅱ							
	消防長認定者							
	応急手当普及員講習Ⅱ免除者							
	計	102	1		31	2	68	3
前年中までの修了者	応急手当普及員講習Ⅰ	417	39		61	5	312	30
	応急手当普及員講習Ⅱ	18			18			3
	消防長認定者	23					23	
	応急手当普及員講習Ⅱ免除者							
	計	458	39		79	5	335	33
合計	560	40		110	7	403	40	

第2 救助活動の概況

1 救助業務実施体制

平成30年4月1日現在，救助隊は29隊配置されており，そのうち5隊が特別救助隊で，1隊が高度救助隊である。

また，345人の救助隊員のうち30.1%にあたる104人が専任救助隊員である。

表18 救助体制

(単位：隊，人)

区分	救助隊数			救助隊員数			
	省令	専任救助隊	兼任救助隊	計	専任救助隊員	兼任救助隊員	計
消防本部							
鹿児島市消防局	3	3		3	42		42
	4	2		2	42		42
	5	1		1	14		14
枕崎市消防本部	3		1	1		10	10
	4						
	5						
出水市消防本部	3		1	1		8	8
	4						
	5						
垂水市消防本部	3		1	1		5	5
	4						
	5						
薩摩川内市消防局	3	1	1	2	12	11	23
	4	1		1	12		12
	5						
日置市消防本部	3	1		1		12	12
	4						
	5						
霧島市消防局	3		2	2	2	10	12
	4						
	5						
いちき串木野市消防本部	3		1	1		8	8
	4						
	5						
南さつま市消防本部	3	1		1		9	9
	4						
	5						
始良市消防本部	3	1		1	10		10
	4						
	5						
さつま町消防本部	3		1	1		16	16
	4						
	5						
指宿南九州消防組合	3		2	2		20	20
	4						
	5						
阿久根地区消防組合	3		1	1		29	29
	4						
	5						
伊佐湧水消防組合	3		2	2		9	9
	4						
	5						
大隅曾於地区消防組合	3	2		2	18		18
	4	1		1	9		9
	5						
大隅肝属地区消防組合	3	1	2	3	10	30	40
	4	1		1	10		10
	5						
沖永良部与論地区広域事務組合	3		1	1		15	15
	4						
	5						
徳之島地区消防組合	3		1	1		33	33
	4						
	5						
熊毛地区消防組合	3		1	1		16	16
	4						
	5						
大島地区消防組合	3	1		1	10		10
	4						
	5						
県計	3	11	18	29	104	241	345
	4	5		5	73		73
	5	1		1	14		14

※ 省令3は省令第3条の規定による救助隊，省令4は省令第4条の規定による救助隊（特別救助隊），省令5は省令第5条の規定による救助隊（高度救助隊）

表19 救助隊が搭乗する車両

区分	救 助	はしご車	屈折 はしご車	ポンプ車	水槽付 ポンプ車	化学車	その他	計
	工 作 車							
消防本部								
鹿児島市消防局	3							3
枕崎市消防本部	1		1					2
出水市消防本部	1	1						2
垂水市消防本部							1	1
薩摩川内市消防局	1				1			2
日置市消防本部	1							1
霧島市消防局	2	1			1			4
いちき串木野市 消防本部	1	1						2
南さつま市消防本部	1	1					1	3
始良市消防本部	1							1
さつま町消防本部	1							1
指宿南九州消防組合	2	1						3
阿久根地区消防組合	1						1	2
伊佐湧水消防組合	2							2
大隅曾於地区消防組合	2	1			2		2	7
大隅肝属地区消防組合	1							1
沖永良部与論地区 広域事務組合	1							1
徳之島地区消防組合	1							1
熊毛地区消防組合	1							1
大島地区消防組合	1	1						2
県 計	25	7	1		4		5	42

2 救助業務実施状況

平成29年中における救助業務の実施状況は、救助出動件数721件、救助活動件数434件、救助人員511人となっている。（表22）

これを前年と比較すると出動件数は77件（9.6％）の減少、活動件数は89件（17.0％）の減少、救助人員は172人（25.2％）の減少となっている。

図8 過去20年間の救助業務実施状況の推移

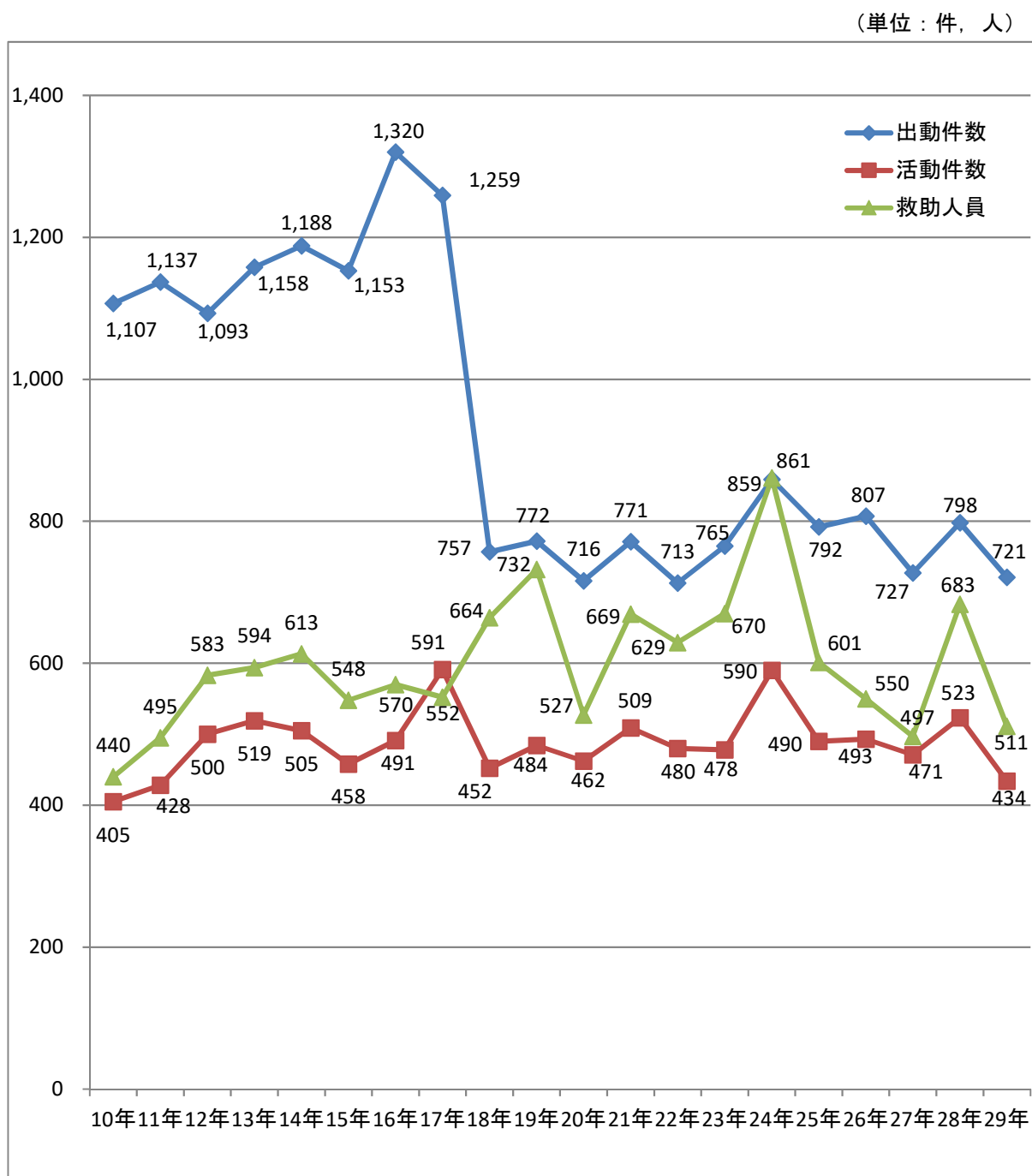


表20 事故種別出動件数及び出動人員の状況（平成29年）

（単位：件，人）

事故種別	火災	交通事故	水難事故	自然災害等	風雨災害等	機械による事故	建築物等	ガス欠事故	破裂事故	その他	計
消防本部											
鹿児島市消防局	7	44	10			3	16	6		34	120
枕崎市消防本部		9				1	1				11
出水市消防本部	1	17	2			2	1			4	27
垂水市消防本部		8								3	11
薩摩川内市消防局	3	37	1			2	1			9	53
日置市消防本部		18	1			1				7	27
霧島市消防局		59	2			5	2			23	91
いちき串木野市消防本部		5	2			1					8
南さつま市消防本部	6	21	3			1				5	36
始良市消防本部		18	3			1				5	27
さつま町消防本部		13								2	15
指宿南九州消防組合	3	31	1			8	6			25	74
阿久根地区消防組合		9	3			1		1		7	21
伊佐湧水消防組合		25								5	30
大隅曾於地区消防組合		48	2			9				12	71
大隅肝属地区消防組合	2	32	4	1		4	3			6	52
沖永良部与論地区広域事務組合										3	3
徳之島地区消防組合		3								4	7
熊毛地区消防組合		13	6			1				17	37
大島地区消防組合											
救助出動件数 計	22	410	40	1		40	30	7		171	721
救助出動人員	専任救助隊員	92	715	107	3	67	108	55		349	1,496
	兼任救助隊員	20	639	47	6	80	16	2		217	1,027
	消防隊員	379	1,311	182		119	104	30		517	2,642
	救急隊員	62	1,797	125	6	144	84	18		525	2,761
	消防団員	495		26						236	757
	計	1,048	4,462	487	15	410	312	105		1,844	8,683

表21 事故種別活動件数及び活動人員の状況（平成29年）

（単位：件、人）

事故種別	火災	交通事故	水難事故	自然災害等	風雨災害等	機械による事故	建築物等による事故	ガス欠等及び事故	破裂事故	その他事故	計
消防本部											
鹿児島市消防局	7	26	8			1	13	2		27	84
枕崎市消防本部		3					1				4
出水市消防本部	1	8				1	1			3	14
垂水市消防本部		7								3	10
薩摩川内市消防局	3	29	1			2				7	42
日置市消防本部		6	1			1				5	13
霧島市消防局		23	1			1	1			10	36
いちき串木野市消防本部						1					1
南さつま市消防本部	6	9	2			1				5	23
始良市消防本部		17	3			1				5	26
さつま町消防本部		7								2	9
指宿南九州消防組合	3	19	1			1	3			19	46
阿久根地区消防組合		8	3			1		1		6	19
伊佐湧水消防組合		16								5	21
大隅曾於地区消防組合		15	1			3				8	27
大隅肝属地区消防組合	2	13	3	1		2	3			3	27
沖永良部与論地区広域事務組合											
徳之島地区消防組合		3								2	5
熊毛地区消防組合		8	2			1				16	27
大島地区消防組合											
救助活動件数 計	22	217	26	1	17	22	3			126	434
救助活動人員	専任救助隊員	85	252	62	3	17	61	13		191	684
	兼任救助隊員	15	279	26		31	10			152	513
	消防隊員	55	596	108		25	61	8		284	1,137
	救急隊員	19	780	64	3	60	42	3		325	1,296
	消防団員			26						191	217
	計	174	1,907	286	6	133	174	24		1,143	3,847

(注) 「救助活動件数」とは、救助出動件数のうち、実際に救助活動を行った件数をいう。

表22 事故種別救助人員の状況（平成29年）

（単位：人）

事故種別	火災	交通事故	水難事故	自然災害等	風雨災害等	機械による事故	建築物等	ガス欠等	破裂事故	その他の事故	計
消防本部											
鹿児島市消防局	4	40	7			1	11	1		26	90
枕崎市消防本部		11					1				12
出水市消防本部		8				1	1			3	13
垂水市消防本部		14								3	17
薩摩川内市消防局	2	35	1			2				8	48
日置市消防本部		7	1			1				5	14
霧島市消防局		24	1			1	1			18	45
いちき串木野市消防本部						1					1
南さつま市消防本部		12	1			1				5	19
始良市消防本部		27	3			1				5	36
さつま町消防本部		7								2	9
指宿南九州消防組合	1	18	1			1	3			20	44
阿久根地区消防組合		16	3			1		1		6	27
伊佐湧水消防組合		22								5	27
大隅曾於地区消防組合		15	1			3				9	28
大隅肝属地区消防組合	2	24	4	1		2	6			3	42
冲永良部与論地区広域事務組合											
徳之島地区消防組合		7								2	9
熊毛地区消防組合		11	2			1				16	30
大島地区消防組合											
救助人員計	9	298	25	1		17	23	2		136	511

表23 救助活動のための機械器具等の保有状況（救助隊保有分）

一般 用 救 助 用 器 具	かぎ付きはしご	35	隊 員 保 護 用 器 具	耐電手袋	121
	三連はしご	29		耐電衣	47
	金属折りたたみはしご又はワイヤはしご	17		耐電ズボン	43
	空気式救助マット	19		耐電長靴	72
	救命索発射銃	35		防塵メガネ	114
	サバイバースリング又は救助用縛帯	85		携帯警報器	95
	平担架	14		防毒マスク	76
	重 量 物 排 除 用 器 具	油圧ジャッキ		32	器 除 染 具 用
油圧スプレッダー		10	陽圧式化学防護服	46	
可搬ウィンチ		32	耐熱服	23	
マンホール救助器具		24	放射線防護服	77	
救助用簡易起重機		1	特殊ヘルメット		
マット型空気ジャッキ		30	除染シャワー	2	
大型油圧スプレッダー		22	除染シャワー（4口以上）		
救助用支柱器具		16	除染剤散布器	2	
切 断 用 器 具	チェーンブロック	10	水 難 救 助 用 器 具	潜水器具	49
	油圧切断機	19		救命胴衣	219
	エンジンカッター	30		水中投光器	21
	ガス溶断機	21		救命浮環	76
	チェンソー	31		浮標	14
	鉄線カッター	47		救命ボート	14
	空気鋸	30		船外機	11
	大型油圧切断機	22		水中スクーター	
破 壊 用 器 具	空気切断機	12	器 具	水中無線機	2
	コンクリート・鉄筋切断用チェンソー	9		水中時計	15
	万能斧	75		水中テレビカメラ	2
	ハンマー	38		登山器具	13
	携帯用コンクリート破壊器具	22		バスケット型担架	41
測 定 用 器 具	削岩機	21	探索用器具	簡易画像探索機	6
	ハンマドリル	21	高 度 救 助 器 具	画像探索機	10
	生物剤検知器	2		地中音響探知機	2
	可燃性ガス測定器	26		熱画像直視装置	9
	有毒ガス測定器	30		夜間暗視装置	2
	酸素濃度測定器	16		電磁波探査装置	
放射線測定器	46	二酸化炭素探査装置			
呼 吸 保 護 用 器 具	化学剤検知器	1	そ の 他 の 救 助 用 器 具	水中探査装置	
	空気呼吸器	181		地震警報器	1
	空気補充用ボンベ	281		投光器	49
	酸素呼吸器	41		携帯投光器	44
	簡易呼吸器	15		携帯拡声器	52
	防塵マスク	112		携帯無線機	56
	送排風機	31		応急処置用セット	21
器 具	エアラインマスク	2	車両移動器具	17	
			緩降機	22	
			ロープ登降機	45	
			救助用降下機	29	
			発電機	51	

第3 自衛隊災害派遣による離島急患搬送

離島における医療体制の実情により、現地では治療困難な患者で、一刻も早く専門病院での手当てが必要である者に対して、昭和36年から自衛隊に対し、災害派遣要請（航空機搬送）を実施している。

搬送機関・活動範囲

海上自衛隊第1航空群 鹿屋航空分遣隊（鹿屋市）
十島村以北

陸上自衛隊第15旅団 第15飛行隊（沖縄県那覇市）
奄美大島以南

1 自衛隊災害派遣（離島急患搬送）の状況

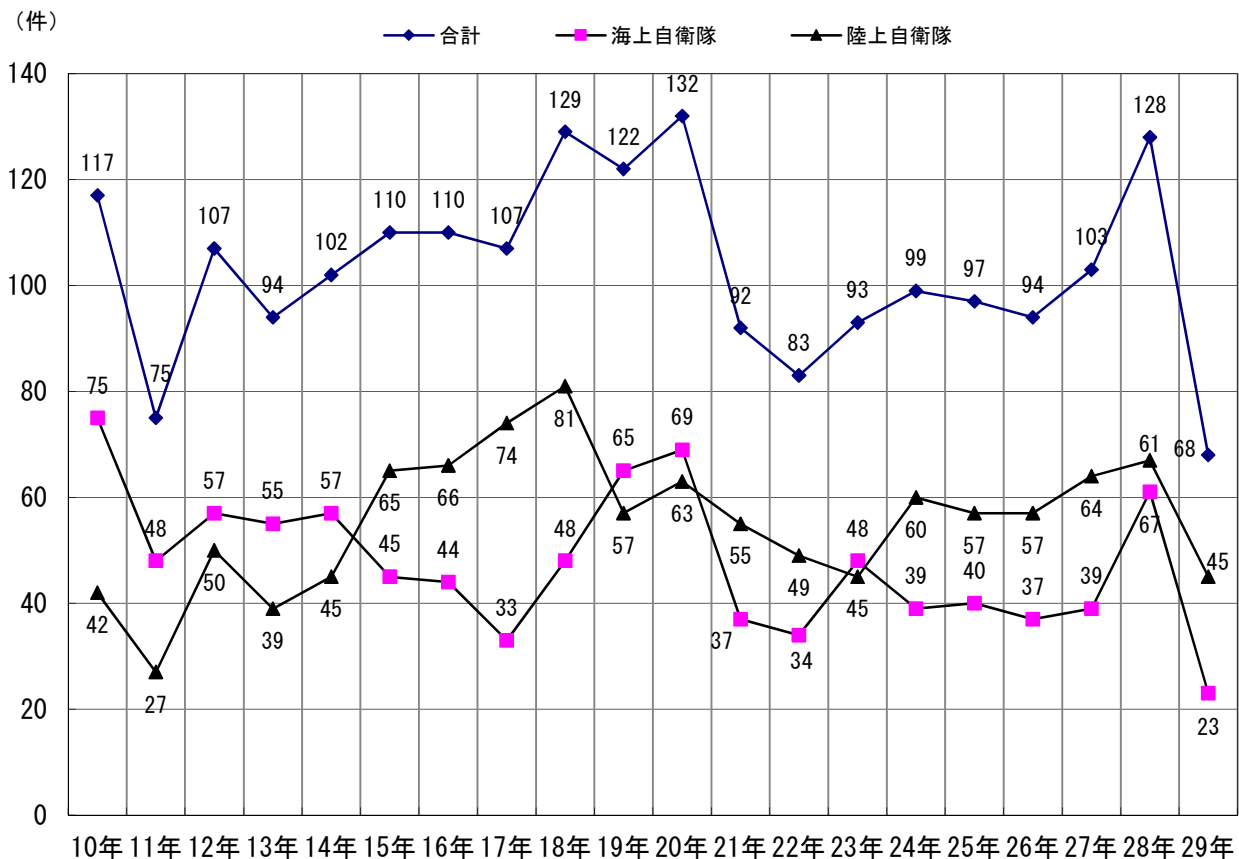
平成29年中における急患搬送出動件数は68件である。（図9）

出動件数68件を郡別にみると、大島郡（奄美市を含む）が51件（全体の75.0%）で、次に熊毛郡（西之表市を含む）が10件（同14.7%）、鹿児島郡が6件（同8.8%）となっている。（図10及び表24）

また、月別では、8月の10件が最も多く、時間帯別（派遣要請時間）では20時から22時までが23件で最も多くなっている。（表25）

平成29年中の搬送人員を傷病別にみると、内臓疾患によるものが26人（全体の38.2%）で最も多く、次に脳疾患が17人（同25.0%）となっている。（表26及び表27）

図9 過去20年間の災害派遣（急患搬送）出動件数



（注）「海上自衛隊」には、教育航空集団を、「陸上自衛隊」には南西航空混成団をそれぞれ含んでいる。

図10 過去20年間の市・郡別災害派遣（急患搬送）の出動件数（その1）

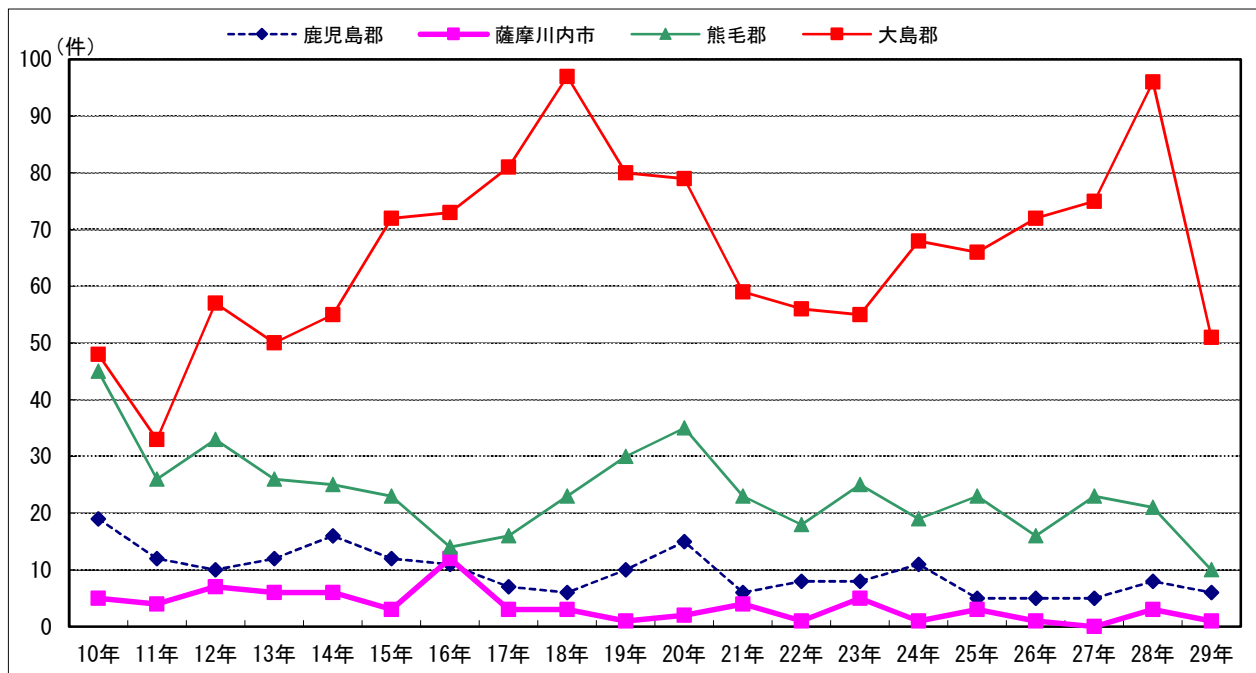


表24 過去20年間の市・郡別災害派遣（急患搬送）出動件数（その2） (年中)

年	郡別	計	鹿児島郡	薩摩川内市	熊毛郡	大島郡	計のうち不搬送件数
平成 10 年		117 (42)	19	5	45	48 (42)	鹿屋1件
11		75 (27)	12	4	26	33 (27)	鹿屋1件
12		107 (50)	10	7	33	57 (50)	鹿屋1件
13		94 (39)	12	6	26	50 (39)	鹿屋2件
14		102 (45)	16	6	25	55 (45)	鹿屋2件
15		110 (65)	12	3	23	72 (65)	鹿屋2件
16		110 (66)	11	12	14	73 (66)	
17		107 (74)	7	3	16	81 (74)	
18		129 (81)	6	3	23	97 (81)	
19		121 (56)	10	1	30	80 (56)	鹿屋1件
20		131 (64)	15 (1)	2	35	79 (63)	鹿屋2件, 沖縄2件
21		92 (55)	6	4	23	59 (55)	鹿屋1件
22		83 (49)	8	1	18	56 (49)	
23		93 (44)	8	5	25	55 (44)	鹿屋1件, 沖縄2件
24		99 (61)	11 (1)	1	19	68 (60)	鹿屋1件, 沖縄1件
25		97 (57)	5	3	23	66 (57)	沖縄1件
26		94 (57)	5	1	16	72 (57)	沖縄1件
27		103 (64)	5	0	23	75 (64)	沖縄1件
28		128 (67)	8	3	21	96 (67)	
29		68 (45)	6	1	10	51 (45)	沖縄1件
計		2,060 (1,108)	192 (2)	71	474	1,323 (1,106)	沖縄分構成比
構成比率		100.0%	9.3%	3.4%	23.0%	64.2%	(53.8%)

- (注) 1 () 内は沖縄自衛隊出動件数の内書きである。
 2 便宜上、熊毛郡には西之表市、大島郡には奄美市をそれぞれ含めている。
 3 平成7年、12年、14年、19年及び20年の鹿児島郡には、各年1件ずつ、離島外からの搬送を含む。

余 白

表25 過去20年間の月別及び時間帯別災害派遣（離島急患搬送）出動件数

区分		年別	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
月別	1	10 (2)	5 (1)	12 (8)	8 (5)	5 (2)	5 (2)	10 (6)	9 (5)	11 (5)	8 (4)	
	2	13 (5)	5 (2)	12 (6)	5 (3)	8 (5)	4 (4)	15 (10)	8 (8)	11 (8)	8 (3)	
	3	11 (6)	13 (5)	4 (1)	8 (2)	8 (4)	13 (5)	10 (4)	10 (7)	9 (7)	16 (10)	
	4	13 (4)	4 (3)	6 (3)	5 (2)	2 (1)	8 (5)	9 (5)	10 (7)	11 (7)	9 (6)	
	5	8 (3)	9 (4)	9 (6)	6 (1)	11 (3)	11 (9)	7 (6)	11 (7)	7 (6)	4 (1)	
	6	9 (7)	2	11 (6)	7 (5)	5 (4)	12 (5)	4 (3)	8 (6)	11 (5)	10 (4)	
	7	11 (6)	11 (5)	7 (4)	6 (3)	13 (7)	9 (5)	7 (4)	7 (6)	11 (7)	2 (2)	
	8	10 (1)	5	9 (4)	8 (2)	7 (4)	5 (3)	4 (2)	5 (5)	13 (7)	11 (6)	
	9	4 (1)	4 (2)	7 (1)	10 (4)	14 (3)	8 (7)	15 (11)	8 (5)	8 (4)	7 (3)	
	10	10 (4)	3 (2)	12 (4)	9 (4)	13 (5)	13 (5)	10 (7)	13 (10)	6 (5)	21 (8)	
	11	3 (1)	6	12 (5)	17 (4)	8 (2)	11 (7)	11 (6)	8 (4)	17 (9)	13 (4)	
	12	15 (2)	8 (3)	6 (2)	5 (4)	8 (5)	11 (8)	8 (2)	10 (4)	14 (11)	13 (6)	
計		117 (42)	75 (27)	107 (50)	94 (39)	102 (45)	110 (65)	110 (66)	107 (74)	129 (81)	122 (57)	
時間帯別	0~2	2	4	5 (1)	2 (1)	6	10 (6)	6 (3)	3 (3)	6 (3)	2 (1)	
	2~4	1 (1)		5 (1)	5 (3)	9 (4)	2 (1)	2 (1)	4 (2)	3 (2)	2 (1)	
	4~6	4 (2)	1 (1)	10 (8)	6 (1)	3 (1)	2	5 (4)	4 (2)	5 (3)	5 (2)	
	6~8	4 (3)	3	4 (2)	2 (2)	3 (3)	3 (2)	6 (3)	10 (8)	5 (3)	7 (4)	
	8~10	11 (6)	8 (4)	11 (9)	6 (4)	11 (6)	19 (16)	13 (9)	7 (5)	11 (5)	13 (4)	
	10~12	17 (7)	8 (7)	9 (6)	12 (6)	12 (6)	21 (12)	21 (15)	14 (9)	21 (14)	19 (11)	
	12~14	20 (7)	8 (3)	4 (3)	8 (5)	8 (4)	9 (7)	11 (6)	11 (10)	19 (13)	11 (7)	
	14~16	15 (6)	11 (3)	8 (4)	8 (3)	8 (5)	6 (6)	12 (10)	8 (5)	5 (3)	10 (5)	
	16~18	14 (4)	12 (3)	14 (5)	16 (4)	12 (4)	12 (6)	9 (3)	14 (9)	18 (15)	10 (3)	
	18~20	10 (3)	8 (4)	17 (3)	8 (4)	16 (8)	5 (1)	11 (7)	9 (6)	13 (7)	21 (5)	
	20~22	14 (2)	8 (2)	10 (2)	9 (3)	9 (4)	14 (5)	9 (3)	14 (8)	11 (8)	13 (8)	
22~24	5 (1)	4	10 (6)	12 (3)	5	7 (3)	5 (2)	9 (7)	12 (5)	9 (6)		

(注) 1 ()内は沖縄自衛隊出動件数の内書きである。
 2 「時間帯」は、自衛隊への派遣要請時間である。

(年中)

20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	計
21 (11)	12 (5)	7 (4)	11 (3)	3 (2)	14 (6)	6 (3)	6 (4)	17 (10)	6 (5)	186 (93)
9 (4)	8 (8)	9 (7)	4 (4)	13 (8)	1 (1)	2 (1)	10 (6)	5 (3)	2 (2)	152 (98)
15 (6)	4 (4)	3 (2)	9 (4)	5 (3)	9 (6)	10 (6)	9 (8)	11 (7)	3 (2)	180 (99)
9 (3)	6 (4)	7 (3)	5 (1)	11 (5)	7 (3)	10 (8)	6 (3)	9 (3)	6 (5)	153 (81)
9 (6)	9 (5)	5 (4)	5 (4)	5 (4)	5 (4)	5 (2)	4 (4)	8 (4)	4 (1)	142 (84)
5 (3)	7 (6)	6 (4)	8 (1)	8 (4)	8 (4)	8 (5)	3 (2)	11 (5)	2 (1)	145 (80)
7 (4)	6 (5)	5 (3)	7 (6)	9 (6)	15 (7)	7 (5)	16 (11)	15 (10)	6 (2)	177 (108)
10 (5)	10 (5)	6 (4)	6 (2)	9 (7)	2 (1)	8 (7)	9 (4)	15 (5)	10 (7)	162 (81)
4 (2)	8 (3)	5 (4)	9 (5)	7 (5)	6 (5)	6 (2)	10 (4)	10 (8)	6 (4)	156 (83)
12 (4)	9 (5)	11 (1)	10 (7)	9 (4)	10 (7)	12 (8)	11 (6)	6 (5)	8 (7)	208 (108)
18 (8)	6 (1)	10 (4)	12 (4)	11 (8)	12 (8)	9 (5)	11 (6)	11 (2)	8 (5)	214 (93)
13 (7)	7 (4)	9 (9)	7 (4)	9 (4)	8 (5)	11 (5)	8 (6)	10 (5)	7 (4)	187 (100)
132 (63)	92 (55)	83 (49)	93 (45)	99 (60)	97 (57)	94 (57)	103 (64)	128 (67)	68 (45)	2062 (1108)
6 (1)	9 (3)	7 (6)	5	8 (5)	5 (4)	8 (5)	7 (6)	11 (5)	7 (4)	119 (57)
4 (2)	2 (1)	3	5 (2)	4 (2)	6 (3)	4 (1)	7 (2)	7 (6)		75 (35)
3 (2)	3 (1)	1 (1)	1	5 (2)	2 (1)	3 (2)		8 (3)	3 (1)	74 (37)
3	2 (1)	1	1 (1)	5 (5)	3 (3)	5 (4)	2 (2)	5 (3)		74 (49)
13 (4)	4 (2)	9 (6)	9 (4)	5 (5)	3 (3)	9 (6)	5 (4)	10 (6)	1 (1)	178 (109)
12 (6)	13 (11)	9 (4)	10 (8)	9 (6)	10 (9)	6 (3)	12 (8)	16 (7)	1	252 (155)
15 (11)	11 (7)	12 (6)	6 (2)	5 (2)	14 (9)	10 (8)	10 (6)	11 (8)	1 (1)	204 (125)
18 (10)	9 (7)	11 (8)	5 (2)	7 (5)	5 (3)	6 (5)	9 (2)	8 (4)	2 (2)	171 (98)
11 (8)	11 (5)	7 (5)	11 (8)	13 (8)	14 (8)	10 (3)	17 (11)	12 (7)	9 (6)	246 (125)
11 (4)	10 (5)	5 (2)	14 (3)	15 (9)	16 (6)	13 (9)	17 (12)	25 (11)	11 (9)	255 (118)
13 (5)	7 (5)	10 (6)	20 (12)	11 (6)	10 (4)	9 (6)	11 (8)	7 (2)	23 (15)	232 (114)
23 (10)	11 (7)	8 (5)	6 (3)	12 (5)	9 (4)	11 (5)	6 (3)	8 (5)	10 (6)	182 (86)

表26 平成29年中の市町村別搬送人員傷病別内訳

市町村別		傷病別 合 計	交通事故		労働災害		脳疾患	頭部損傷 (一般負傷)	産科・ 婦人科	小児科	内臓疾患	その他
			頭部	その他	頭部	その他						
鹿児島郡	三島村	1								1		
	十島村	5					1				3	1
薩摩川内市		1									1	
熊毛郡 (西之表市含)	西之表市	3					2				1	
	中種子町	2					1					1
	南種子町	1					1					
	屋久島町	4					1				1	2
大島郡 (奄美市含)	奄美市	9 (3)							1	1	6 (3)	1
	龍郷町											
	大和村											
	宇検村											
	瀬戸内町											
	喜界町	8 (8)		1 (1)							5 (5)	2 (2)
	徳之島町	8 (8)		1 (1)			3 (3)	1 (1)		1 (1)	1 (1)	1 (1)
	天城町											
	伊仙町	3 (3)		1 (1)							2 (2)	
	和泊町	7 (7)					2 (2)			3 (3)	1 (1)	1 (1)
	知名町	11 (11)					5 (5)			3 (3)	3 (3)	
与論町	5 (5)					1 (1)		1 (1)		2 (2)	1 (1)	
計		68 (45)		3 (3)			17 (11)	1 (1)	2 (1)	9 (7)	26 (17)	10 (5)

(注1) ()内は、沖縄自衛隊搬送人員の内書きである。

(注2) 不搬送の傷病者は含まない。

表27 過去20年間の離島急患搬送人員及び傷病別内訳

(年中)

傷病別 年別	計	交通事故		労働災害		脳疾患	頭部損傷 (一般負傷)	産科・ 婦人科	小児科	内臓疾患	その他
		頭部	その他	頭部	その他						
10	117 (43)	1 (1)	3 (2)		3	33 (11)	2 (1)	10 (6)	6 (1)	52 (18)	7 (3)
11	75 (28)	2	1 (1)	1	1	13 (6)	5 (2)	6 (2)	4	37 (15)	5 (2)
12	106 (51)	3 (2)	1 (1)		2	30 (18)	3 (3)	12 (6)	7 (3)	45 (18)	3
13	92 (39)	1 (1)	2	2 (1)	5 (1)	20 (9)	2 (2)	4 (3)	5 (2)	41 (16)	10 (4)
14	102 (46)	1 (1)	4 (3)		4 (2)	15 (5)	7 (3)	5 (4)	13 (8)	48 (18)	5 (2)
15	110 (66)	2 (1)	2 (1)		4 (1)	30 (15)	3 (1)	12 (11)	10 (9)	38 (22)	9 (5)
16	111 (66)	1 (1)	1 (1)		1	23 (11)	2 (1)	13 (8)	20 (16)	47 (28)	3
17	103 (71)		1			21 (16)	4 (2)	21 (15)	5 (5)	46 (30)	5 (3)
18	126 (79)		4 (4)	1 (1)	2 (1)	24 (9)		29 (20)	11 (7)	51 (35)	4 (2)
19	117 (55)		1 (1)		4 (2)	19 (11)		21 (11)	15 (7)	47 (20)	10 (3)
20	131 (64)	1	1		3 (1)	29 (17)	2 (1)	23 (9)	18 (11)	45 (21)	9 (4)
21	93 (56)	1 (1)	2	2 (1)	1	19 (11)		16 (10)	10 (6)	37 (25)	5 (2)
22	83 (49)	2 (1)	1 (1)			17 (9)	4 (3)	14 (7)	2 (2)	30 (18)	13 (8)
23	94 (46)		1			21 (9)	1 (1)	22 (6)		36 (23)	13 (7)
24	101 (61)	1	5 (2)			18 (10)	2 (1)	13 (5)	5 (5)	46 (32)	11 (6)
25	96 (56)	1 (1)	1		3 (2)	12 (4)		21 (13)	1 (1)	38 (25)	19 (10)
26	93 (56)	2 (1)	6 (4)		3 (3)	7 (3)		17 (10)	6 (4)	39 (21)	13 (10)
27	104 (65)	4 (3)	4 (1)	3 (1)	3	13 (10)	4 (2)	13 (8)	1	49 (33)	10 (7)
28	128 (67)	2	1 (1)		2	24 (17)	3 (1)	17 (9)	4 (2)	48 (22)	27 (15)
29	68 (45)		3 (3)			17 (11)	1 (1)	2 (1)	9 (7)	26 (17)	10 (5)

(注) ・本表は、鹿屋の海上自衛隊第1航空群及び沖縄の陸上自衛隊第15旅団（内書き）が搬送した人員である。
・不搬送の傷病者は含まない。

第4 消防・防災ヘリコプターの活動

1 消防・防災ヘリコプターの導入

県では、大規模災害時における広範な消防防災活動を行うほか、急患搬送、災害危険箇所の調査点検などに幅広く活用するとともに、災害時の被害状況をよりの確かかつ迅速に把握するため、消防・防災ヘリコプター「さつま」を導入し、平成10年4月1日、運航拠点となる枕崎空港（現枕崎ヘリポート）に防災航空センターを設置するとともに枕崎市、南さつま市、指宿南九州の3消防本部から派遣された消防職員6名で編成する鹿児島県防災航空隊を発足させた。

なお、平成29年4月1日から平成32年3月31日まで、伊佐湧水消防組合より派遣された消防職員1名を加え、航空隊7名体制となっている。

2 消防・防災ヘリコプターの活動内容

消防・防災ヘリコプターは以下の活動を行うこととしている。

(1) 災害応急対策活動

ア 被災状況等の調査及び情報収集活動

イ 食料、衣料その他の生活必需品及び復旧資材等の救援物資、人員等の搬送

ウ 災害に関する情報、警報等の伝達等広報宣伝活動

エ その他、災害応急対策上、特に、航空機による活動が有効と認められる場合

(2) 救急活動

ア 山村、離島等からの救急患者の搬送

イ 傷病者発生地への医師搬送及び医療機材等の搬送

ウ 高度医療機関のない地域からの傷病者の病院搬送

エ 消防・防災ヘリの積極的活用としての本土内搬送

オ その他、救急活動上、特に、航空機による活動が有効と認められる場合

(3) 火災防御活動

ア 林野火災等における空中からの消火活動

イ 被災状況調査及び情報収集活動

ウ 消防隊員、消防資機材等の搬送

エ その他、火災防御活動上、特に、航空機による活動が有効と認められる場合

(4) 救助活動

ア 河川、海等での水難事故、山岳遭難事故等における捜索または救助

イ 高層建築物火災における救助

ウ 山崩れ等の被害により、陸上から接近できない被災者等の救助

エ 高速道路及び自動車専用道路での事故救助

オ その他、救助活動上、特に、航空機による活動が有効と認められる場合

(5) 広域航空消防防災応援活動

ア 県が締結している他県との相互応援協定等による相互応援

(6) 災害予防活動

(7) 自隊訓練のための活動

(8) 各種防災訓練等への参加等

(9) その他知事が必要と認める活動

表28 消防・防災ヘリコプター「さつま」の諸元・性能

型 式	ベル式412EP型
定 員	13名（増槽タンク非装着時15名）
最 大 全 装 備 重 量	5,398kg
空 虚 重 量	3,820kg
有 効 搭 載 量	1,578kg
航 続 距 離	720km
最 大 巡 航 速 度	259km/h
限 界 高 度	6,096m
全 長	17.1m
全 幅	2.9m
全 高	4.6m
消 火 用 水 積 載 量	1,400ℓ（ドロップタンク）

3 消防・防災ヘリコプターの運航状況

平成29年中における運航件数は253件となった。

過去10年間の推移は下図のとおりであり、救急活動、山岳や海上での捜索、救助活動などの緊急運航や各種防災訓練を行った。

図11 過去10年間の活動状況

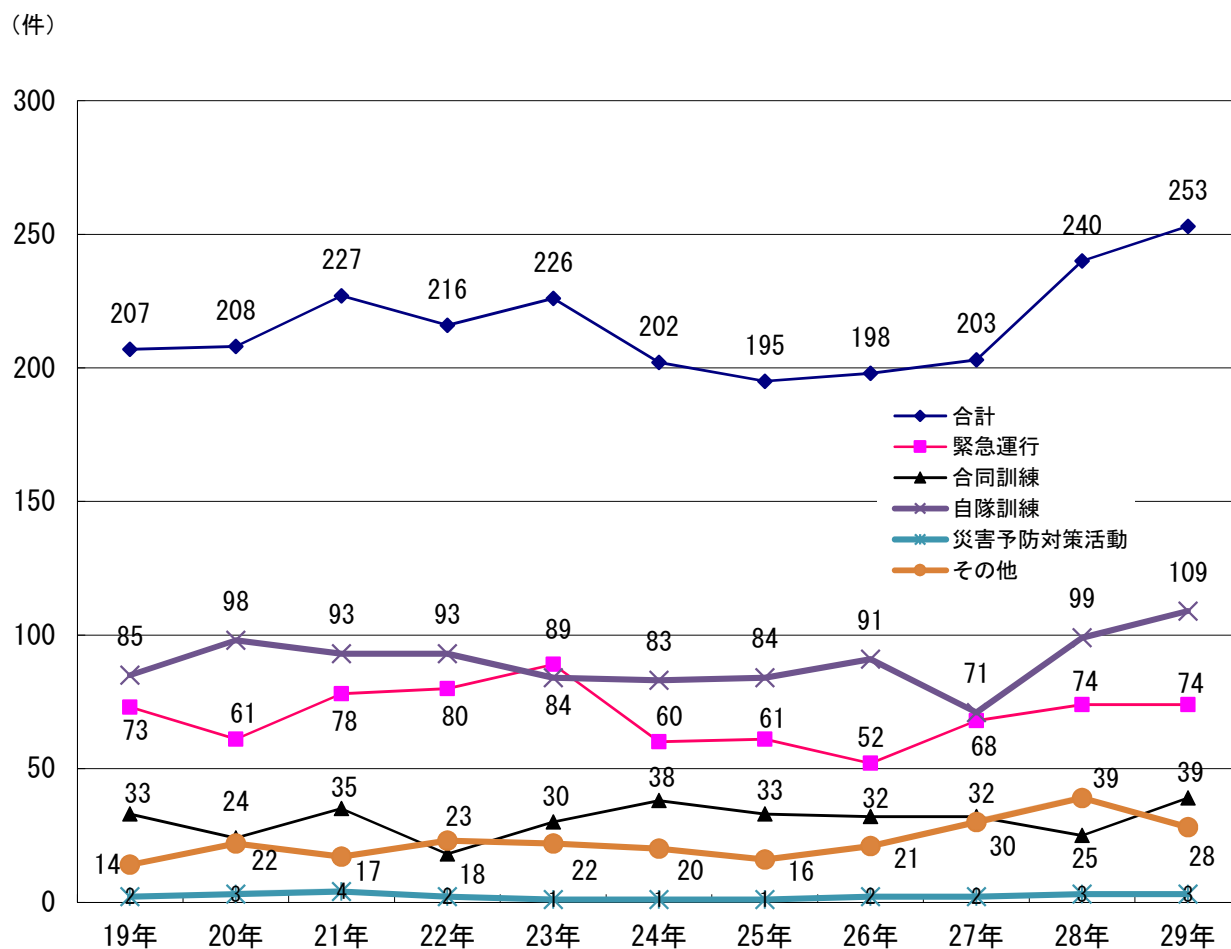


表29 消防・防災ヘリコプターの運航状況

(平成29年)

区分	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	総計	
緊急運航	災害応急対策活動	件数						1	1					2	74件 91時間50分	
		時間							1:45	5:20						7:05
	救急活動	件数	2	3	1	5	2		4	4	2	5	1	4		33
		時間	2:05	4:25	1:20	8:25	1:35		6:15	4:15	3:05	3:35	0:25	2:20		37:45
	火災防 御活動	件数														
		時間														
	救助活動	件数	3	2	1	1	3		1	5	3	1	1	4		25
		時間	6:45	1:00	2:50	0:35	3:25		0:30	5:45	5:20	0:30	0:40	5:35		32:55
	広域応援	件数				5			5				2	2		14
		時間				5:05			4:30				2:30	2:00		14:05
災害予防活動	件数				1						2			3	3件 4時間55分	
	時間				2:10						2:45			4:55		
合同訓練	他県広域関係	件数										2		2	39件 52時間25分	
		時間										5:10		5:10		
	縣市町村関係	件数	5	2	1	1	5		1	2	5	8	4	2		36
		時間	7:15	1:45	0:35	0:55	7:10		1:00	5:05	5:30	9:35	4:05	3:00		45:55
	合同訓練 事前訓練	件数										1				1
		時間										1:20				1:20
自隊訓練	件数	10	10	14	9	4	6	13	9	10	9	8	7	109	109件 118時間45分	
	時間	10:55	13:15	16:55	9:30	4:00	5:55	14:35	7:35	10:35	9:10	9:30	6:50	118:45		
その他	件数	1	1	2		4			8	5	2	1	4	28	28件 42時間05分	
	時間	1:45	1:40	2:10		8:10			12:05	6:30	1:35	1:30	6:40	42:05		
合計	件数	21	18	19	22	18	6	25	29	25	28	19	23	253	253件 310時間00分	
	時間	28:45	22:05	23:50	26:40	24:20	5:55	28:35	40:05	31:00	28:30	23:50	26:25	310:00		

表30 消防・防災ヘリコプターの活動状況（H29年中）

(1) 災害応急対策活動状況

件数	回数	月 日	災害種別	発 生 場 所	時 間
1	1	7/11		南九州市, 指宿市	1:45
2	1	8/7		奄美大島地区	5:20
2件 2回 7時間05分					

(2) 救急活動状況

件数	回数	月 日	災害種別	発 生 場 所	搬送人員	時 間
1	1	1/21		十島村(口之島)	1	1:55
2	1	1/28		指宿市	1	0:10
3	1	2/1		鹿児島市	1	4:00
4	1	2/19		南さつま市	1	0:15
5	1	2/26		指宿市	1	0:10
6	1	3/17		西之表市	1	1:20
7	1	4/2		指宿市	1	0:10
8	1	4/6		屋久島町(医師搬送)		1:00
9	1	4/6		屋久島町	1	0:45
10	1	4/13		鹿児島市	1	3:50
11	1	4/26		十島村(諏訪之瀬島)	1	2:40
12	1	5/19		鹿児島市	1	1:00
13	1	5/27		霧島市	1	0:35
14	1	7/1		奄美市(臓器搬送)		3:25
15	1	7/6		西之表市	1	1:10
16	1	7/6		屋久島町(医師搬送, 資器材搬送)		0:45
17	1	7/6		屋久島町	1	0:55
18	1	8/2		霧島市	1	0:30
19	1	8/12		屋久島町	1	1:20
20	1	8/15		西之表市	1	1:10
21	1	8/19		屋久島町	1	1:15
22	1	9/11		鹿児島市	1	1:40
23	1	9/21		屋久島町	1	1:25
24	1	10/4		鹿児島市	1	1:15
25	1	10/6		西之表市	1	1:10
26	1	10/20		鹿屋市(医師搬送)		0:25
27	1	10/20		鹿屋市	1	0:25
28	1	10/30		日置市	1	0:20
29	1	11/20		霧島市	2	0:25
30	1	12/15		屋久島町(医師搬送)		0:45
31	1	12/15		屋久島町	1	0:50
32	1	12/23		屋久島町	1	0:35
33	1	12/29		指宿市	1	0:10
33件 33回 37時間45分						

(3) 火災防御活動状況

件数	回数	月 日	災害種別	発 生 場 所	時 間
0件 0回 0時間00分					

(4) 救助活動状況

件数	回数	月 日	災害種別	発 生 場 所	時 間
1	1	1/26		南さつま市(水難捜索)	1:10
2	1	1/26		南さつま市(水難捜索)	1:10
3	1	1/26		南さつま市(水難捜索)	1:10
4	1	1/27		南さつま市(水難捜索)	1:15
5	1	1/27		南さつま市(水難捜索)	1:10
6	1	1/28		指宿市(山岳救助)	0:50
7	1	2/19		南さつま市	0:35
8	1	2/26		指宿市(山岳救助)	0:25
9	1	3/1		錦江町(捜索救助)	1:30
10	1	3/1		錦江町(捜索救助)	1:20
11	1	4/2		指宿市(山岳救助)	0:35
12	1	5/1		霧島市(山岳救助)	1:15
13	1	5/22		屋久島町(山岳救助)	1:30
14	1	5/27		霧島市(山岳救助)	0:40
15	1	7/21		霧島市(山岳救助)	0:30
16	1	8/2		霧島市(山岳救助)	0:40
17	1	8/3		屋久島町(山岳救助)	1:00
18	1	8/12		南さつま市(水難捜索)	1:35
19	1	8/13		南さつま市(水難捜索)	1:30
20	1	8/13		南さつま市(水難捜索)	1:00
21	1	9/18		霧島市(山岳救助)	1:45
22	1	9/26		阿久根市(水難捜索)	1:50
23	1	9/26		阿久根市(水難捜索)	1:45
24	1	10/30		日置市(山岳救助)	0:30
25	1	11/20		霧島市(山岳救助)	0:40
26	1	12/11		長島町(水難捜索)	2:15
27	1	12/12		長島町(水難捜索)	2:10
28	1	12/23		屋久島町(沿岸救助)	0:45
29	1	12/29		指宿市(山岳救助)	0:25
29件 29回 32時間55分					

(5) 広域航空消防防災応援活動

件数	回数	月 日	災害種別	発生場所	時間
1	1	4/13		宮崎県（火災防ぎょ）：散水3回	2:30
2	1	4/19		宮崎県（救急）：医師搬送	0:30
3	1	4/19		宮崎県（救急）	0:35
4	1	4/20		宮崎県（救助）	1:00
5	1	4/20		宮崎県（救急）	0:30
6	1	7/21		宮崎県（救助）	1:00
7	1	7/21		宮崎県（救急）	0:15
8	1	7/27		宮崎県（救急）	1:30
9	1	7/28		宮崎県（救助）	0:55
10	1	7/28		宮崎県（救急）	0:50
11	1	11/16		宮崎県（救急）：医師搬送	1:05
12	1	11/16		宮崎県（救急）	1:25
13	1	12/4		宮崎県（救助）	1:15
14	1	12/4		宮崎県（救急）	0:45
14件 14回 14時間05分					

(6) 各種防災訓練等への参加等

件数	回数	月 日	訓練内容	訓練名及び実施場所	時間
1	1	1/8	ドロップタンク消火	枕崎市消防出初め式	0:10
2	1	1/8	情報収集訓練	鹿児島市消防出初め式	0:40
3	1	1/12	ドロップタンク消火	桜島火山爆発総合訓練	0:50
8	2	3/7	ドロップタンク消火	鹿児島市消防局山林火災訓練	0:35
9	1	4/30	航空機集結訓練	エアメモリアル	0:55
10	1	5/15	情報収集訓練	鹿児島市防災点検	1:05
11	1	5/17	隊員投入・バーチ担架救助	伊佐湧水消防組合山岳救助訓練	1:45
12	1	5/18	要員搬送・SVノーカット救助	霧島市総合防災訓練	1:25
13	1	5/21	情報収集・広報訓練	鹿児島県総合防災訓練	1:40
14	1	5/24	情報収集訓練	桜島噴火上空視察訓練	1:15
15	1	7/3	SVノーカット救助	国民安全の日消防演習	1:00
16	1	8/29	要員搬送・情報収集	離島防災訓練	3:50
17	1	8/30	隊員投入・救助訓練	鹿児島市消防局隊員投入訓練	1:15
18	1	9/3	ピタゴール救助・物資投入	南さつま市総合防災訓練	0:50
19	1	9/3	エバック誘導あり救助	曾於地区総合防災訓練	1:05
20	1	9/8	隊員投入・航空担架救助	霧島市消防局北消防署山岳救助訓練	2:00
21	1	9/12	航空担架救助	鹿児島市消防局南消防署山岳救助訓練	0:45
22	1	9/20	航空担架救助	いちき串木野市消防本部救助救出訓練	0:50
23	1	10/2	ドロップタンク消火	さつま町消防本部合同訓練	1:15
24	1	10/2	隊員投入・バーチ担架救助	指宿南九州消防組合との連携訓練	0:50
25	1	10/4	隊員投入訓練	日置市消防本部隊員投入訓練	1:10
26		10/11	隊員投入・山岳救助訓練	鹿児島市消防局西消防署山岳救助訓練	0:35
27	1	10/17	地上支援要領	消防防災ヘリ活動支援研修（北薩・川薩）	1:55
28	1	10/18	地上支援要領	消防防災ヘリ活動支援研修（鹿児島・南薩）	1:10
29	1	10/19	地上支援要領	消防防災ヘリ活動支援研修（大隅）	1:30
30	1	10/20	航空担架救助	石油コンビナート等総合防災訓練	1:10
31	2	11/5	情報収集・広報・ドロップタンク消火	始良市総合防災訓練	1:50
32	1	11/7	隊員投入・各救助訓練	消防学校救助科合同訓練	1:25
33	1	11/19	SVノーカット救助	平成29年度いちき串木野市総合防災訓練	0:50
34	1	12/12	バーチ担架救助	鹿児島市消防局中央消防署山岳救助訓練	1:25
35	1	12/14	地上支援要領	消防防災ヘリ活動支援研修（始良・伊佐）	1:35
35件 37回 45時間55分					

余 白